

2. 「福祉サービス」から「生活サービス」へ（新しい福祉の創造）

福祉ニーズから生活ニーズの充足へとシフトし、豊かな生活を実現する。



2. 生活サービスへ

【基本的な考え方】

地域にはこれまでとは異なる多様性があり、新しい仕組みを構築することが求められています。

さらに、これから私たちが経験する技術革新は、それぞれの生き方、暮らし方に大きな影響を与え、それに伴って、「福祉」サービスの概念がもっと広く、深くなってくると考えられます。

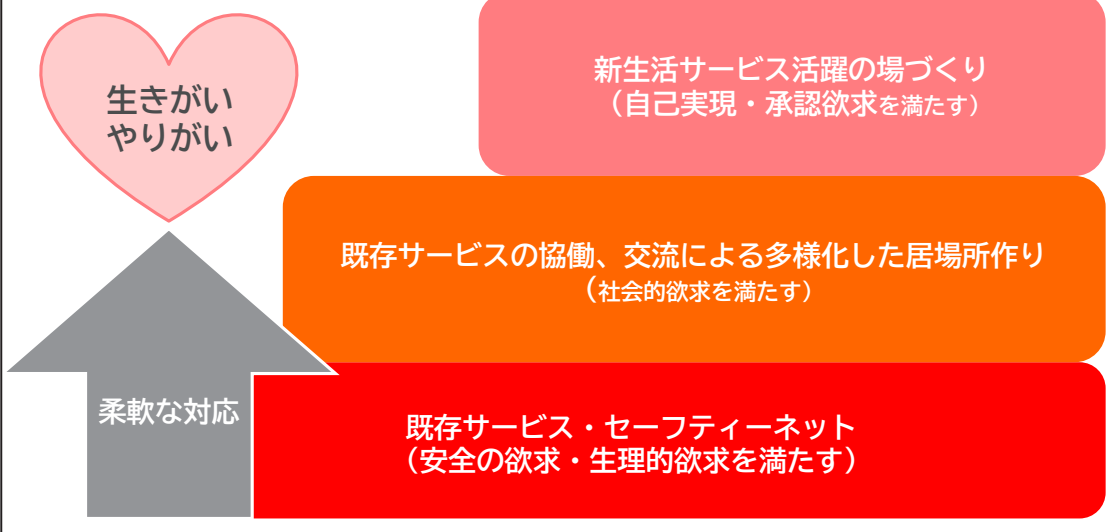
また、現在の福祉制度の「縦割り」を超えて柔軟に必要な支援を確保することが容易となるよう準備しなければ、時代に対応できないことも想像に難しくありません。

そこで、これまでの「福祉サービス」から、地域住民の生理的、安全、社会的欲求から自分らしく暮らせる承認、自己実現欲求までに対応したプログラムとして広げ、住民が主役の新たな「生活サービス」を創出し、地域で豊かに暮らせる社会の実現を目指します。

2. 「福祉サービス」から「生活サービス」へ（新しい福祉の創造） 福祉ニーズから生活ニーズの充足へとシフトし、豊かな生活を実現する。

POINT

各ステージに応じた人生応援型の生活サービス拡充
縦割り排除のワンストップ対応でのサービス化

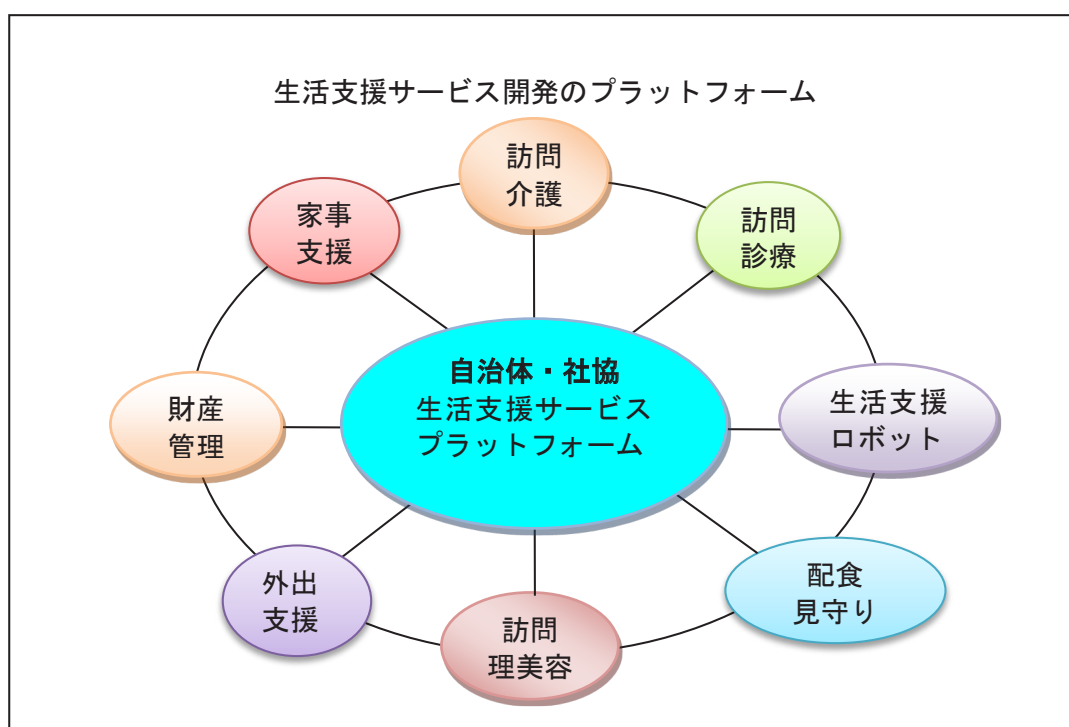


施策1 生活支援サービスの充実



多様なニーズに応えられるサービスを創るためには、介護サービス事業者だけでなく、介護業界以外の企業や地域住民との連携が必要です。そのためには、民間の創意工夫、柔軟性を十分に発揮できるように規制緩和を進める必要があります。

地域ケア会議等で地域課題を抽出し、課題解決のための政策やサービス開発につなげるとともに、直接、住民の声をサービス開発につなげることのできる仕組みを作ることも有効です。そこで、公民連携して生活支援サービス開発のプラットフォーム構築に向けた施策を推進します。



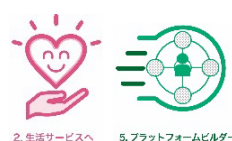
施策2 生活支援ロボットの活用



認知症になっても、自分らしい生活を送ることができるよう、生活支援ロボットの開発や導入を推進することが必要です。認知症になっても手続き記憶は衰えませんが、社会との接点を保ちながら自分らしい生活を送ることが可能になります。スマートフォンを使いこなせば、目的地まで案内してくれたり、機能や必要な商品を購入したりすることができます。

そこで、障害者や要介護高齢者の生活圏を広げることのできる生活支援ロボットの開発及び普及のための施策を推進します。

施策3 介護職週休3日制導入支援制度の創設



今後、高齢者の急増等を踏まえると、介護人材等の養成及び就労支援が必要です。介護現場に良い人材を集めるためには、介護現場の就業環境を改善し、職員の心身の負担軽減や業務の生産性向上をより一層進めることが必要です。

そのために、事業所内の働き方改革を進め週休3日制の導入に向けた施策を推進します。

施策4 介護事業所等に多様な働き方を導入



介護事業所等では、夜間の勤務も含めると、介護職員にかなりの負担がかかります。土日や盆暮れ、年末年始についても、サービスを止めることはできません。そこで、高齢者や女性、障がい者にも介護現場で適した仕事ができるよう、介護業務を再構築するとともにワークシェアを進め、介護事業所等に多様な働き方を導入し、定着できる施策を推進します。